

● 神名大典会長

龍野ロータリークラブは2市1町という2680地区で一番広いテリトリーを持つクラブです。瀬戸内海から岡山県、鳥取県にも隣接するという多様な環境の中1959年4月1日に設立されてより60年以上の歴史をつないでまいりました。

歴史をつないでこられた先輩諸氏に敬意を表しますとともに、今後も良い歴史を刻み続けていきたいと考えています。

本年度RI会長 シェカール・メータ氏のテーマは **SERVE TO CHANGE LIVES「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」**です。「人のために世話をし、奉仕することが最良の生き方、なぜなら、その経験を通じて誰かの人生だけでなく、自分の人生を豊かにできるのだから」と述べられています。

また、第2680地区ガバナー 吉岡博忠氏のテーマは **For the dynamic Leaders of futures with Rotary「ロータリーとともに活力に満ちたリーダーを育てるために」**です。

つまり慈善事業をやるという事だけではなく、ロータリーの奉仕の心を作ることにより、ロータリーが身に付き、自身の倫理を高め、高潔な人格を作ることが出来るということだと思っています。

これを受けて今年度の会長方針を二宮尊徳翁の言葉から、「心の田畑を耕そう」とさせていただきました。この言葉はもともと仏教の経典に書かれていた言葉で、お釈迦様が布教伝導の旅をされているとき、田を耕している農夫に出会われ、農夫が「私は田を耕し、種をまき、作物を育てて食を得ている。聖者も田を耕したらどうか」と尋ねたそうです。するとお釈迦様は「私もまた心という大切な田を耕しています。人の心を耕し、信という種をまいています。」と答えたという故事により、心田を耕す、耕心田という言葉が生まれたと言われています。二宮尊徳も「あらゆる荒廃は心の荒廃から起こる。心を荒れ放題にしないためには絶えず心の田んぼ、つまり心田を耕さなければならない」と説いています。どんなに素晴らしい出会いがあっても、よい話を聞いても心がカチカチに固まっていたら心に響きません。COVID-19の影響により疲弊した心を耕し、空気と養分を取り入れ、肥沃な心を取り戻す一年にしたいと思います。メンバーの皆様、よろしくご協力をお願いいたします。

具体的な活動方針としては以下の通りです。

例会担当委員会には、今年もCOVID-19の影響により柔軟な例会運営になると思われませんが、例会こそがクラブ運営の根幹であると考えていますので、楽しく、出席せずにはおられない例会運営をお願いしております。会員増強委員会には、会員の減少が続いている現状を踏まえ、会員の維持・増強は不可欠なことから、本條副会長に委員長を引き受けていただき、純増2名の目標でお願いしています。

親睦委員会については「親睦こそ我がクラブ」のスローガンのもとに従来の行事に加えて、新しい行事も検討をお願いしています。COVID-19の影響で親睦事業が行いにくい現状ですが、何か新しい親睦のスタイルも考えていただけたらと思っています。

広報委員会では週報の発行と内容の充実、また、リニューアルされたHPの管理についてもお願いしています。情報委員会では広報委員会と連携し、ロータリー情報の提供と新会員に対するガイダンスをお願いしています。

職業奉仕委員会では、職場例会の実施、職業奉仕月間の事業について検討をお願いしています。社会奉仕委員会では、社会奉仕活動の実施、ロータリー奉仕デー、青少年奉仕プログラムの検討に加え、今後取り組む事業の発掘もお願いしています。国際奉仕委員会では、国際奉仕プロジェクトの推進、国際理解の向上についてのプログラムの検討をお願いしています。財団委員会では、ロータリー財団年次基金、恒久基金、ポリオ基金、米山記念奨学会寄付の推奨をお願いしておりますので、皆様方ご協力をよろしくお願いいたします。

以上いろいろとお話しさせていただきましたが、会員の皆様方のご協力なくしては何事も進まないのが現状です。本年度一年間の皆様方のご協力を再度お願いいたします。